

目的 本研究では、乳幼児期の要求伝達行動をとりあげ、乳幼児と養育者とのコミュニケーションのありかたを検討することを目的とし、具体的には、①要求伝達行動の発達段階とその手段との関係、②要求手段の調整過程、③要求伝達行動と行動特徴との関係、④要求伝達行動の聞き手の相違による読みとり、の4点について分析する。

方法 縦断的観察としては、家庭で養育されている2組の母子の自由遊び及び食事場面を観察し、子どもから母親への要求伝達が起こった場合、事前状況・子どもの伝達手段・要求の満足度・母親の行動や言葉などの観点から記録した。遊びと食事の場面に分類し、伝達手段の発達、母親に要求が聞き入れられないときの手段の変化を分析した。横断的調査としては、保育園に在籍する月齢11か月から18か月までの乳幼児43名を対象に、母親と保育士に記入を依頼し、要求伝達行動及び日常の行動特徴を、質問紙法によって調査した。要求内容を、食べる、物を取る、相手をしてもらう、眠るの4つに、子どもの行動特徴を10のカテゴリーに分類し、子どもの伝達手段の発達・調整過程及び母親と保育士による要求伝達行動の読みとりの回答の一致度を分析した。

結果 要求手段の調整過程については、観察から、要求が達成されない場合、次の手段として、「母親を見る」「発声」という行動の後、泣きにより調整をする傾向が見られ、要求伝達行動の聞き手の相違による読みとりは、母親と保育士の間では、子どもが手段としている行動のパターンにはある程度の一致がみられたが、各要求内容の伝達手段にはあまり一致がみられなかった。